

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。  
雪が続いて大変でしたね。みなさま被害はありませんでしたでしょうか？  
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動していきます。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、  
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。  
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、  
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

1. のらくら農場萩原紀行さん 経営力向上講習会報告

■ 1 ■ のらくら農場萩原紀行さん 経営力向上講習会報告

1月31日、のらくら農場萩原紀行さんによる経営力向上講習会を開催しました。  
のらくら農場は、長野県佐久穂町で年間50品目を有機栽培でつくっている農場。  
土壌分析と生育診断をもとに、味、栄養価、出荷時期を狙ってつくることが得意  
で、栄養価コンテストでは何度もグランプリを獲得しています。

スタッフは夏の最盛期で約20人。1反あたり作業にかけられる時間は3日という  
忙しさの中どうやったらチーム経営がうまくいくのか、のらくら農場の試みを『野  
菜も人も畑で育つ—信州北八ヶ岳・のらくら農場の「共創する」チーム経営』と  
いう本にまとめられています。

萩原さんは26年前、26歳のときに夫婦で就農しました。最初は、忙しすぎて仕  
事が回らないから自分のコピーロボットがほしい！細かい仕事が多いから秘書が  
ほしい！一を聞いて十を分かってくれる右腕がほしい！と思っていましたが、だ  
んだんと、単純作業を人に任せてややこしいことは全部自分でやるというやり方  
では農場がちっとも強くないこと、足りないのは人手という「手」だけじゃ  
なく「目」も「頭脳」もだということに気づいていきました。

そこで、いまは全員が共有できる資料と、コミュニケーションを活発化するルー  
ルをつくり、一緒に作業し、一緒にみて、意見をきくことでチームとしてのチカ  
ラを高めていっています。

#### 〈全員が共有できる資料〉

「苗の水やり 10 年」と言われるように、農業、特に有機農業では経験が重視されてきました。でも、温度計や水分計で計測して判断できることは数値化、言語化できることは言語化して資料にまとめるなど、経験でしか解決できない領域を狭め明確化することで、スタッフの技術向上をスピードアップしています。それでもどうしても残る経験でしか解決できない部分を、一緒に作業し、一緒にみることで教えていくわけです。ちなみに資料は、あまりに初歩的なことから書くと取扱説明書のようになってしまっただけでかえって分かりにくく、「1 シーズン経験した人があとから分かっていく」レベルでまとめています。

#### 〈コミュニケーションを活発化するルール〉

のらくら農場のルールにはおもしろいものがたくさんあります。例えば、

##### ・怒ること禁止

叱るも禁止。もちろん注意はするけれど、あくまで感情的にならないように。

##### ・横に立つコミュニケーション

正面に立つより、横に立つほうがコミュニケーションがうまくいく。

##### ・かぶせ話をしない

人は話しながら考えをまとめるので、相手に最後まで言い切らせるほうが、結局は会話の効率がいい。

##### ・魔法のことは「ちょうどいい」

失敗したときに「ちょうどよかった！」と改善のきっかけにすることで、同じ失敗を防ぎ、失敗した人の心の負担も軽くすることができる。

他にも、正論リンチをしない、反証不能な理屈を言うのではなくフラットにディスカッションすることを大事にするなど、コミュニケーションがとれる環境を意識的につくることで、2021 年度はスタッフから栽培の改善点が 267 個も上がってきたそうです。

いま農家が減り続けていますが、売上規模でいうと 3000 万円以下が減る一方、3000 万円以上の農家は増えているそうです。これまで農業といえば自分が経営するしかありませんでしたが、これからは雇用されて農業に関わる人も増えていくのではないのでしょうか。これまで以上にいろんな人が活躍できる産業になって、土地と食べものを支えていけたらいいなと思いました。

のらくら農場について、詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.norakuranoujyou.com/>